

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線12号線他2路線改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	上下水道課、未来開発課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26. 4 ~
	事業内容	野木工業団地内道路について、老朽化や排水対策による整備を行う。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額		千円	1,198	22,873	10,694	11,734	31,234
			事業費等		千円	0	21,671	9,460	10,500	30,000
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円		21,671	9,460	10,500	30,000	
			人件費		千円×人役	1,198	1,202	1,234	1,234	1,234
正規職員			千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.01	357 × 0.05	470 × 0.05	470 × 0.05	470 × 0.05			
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	用地測量、雨水管渠設計、詳細設計、物件補償、 道路摺り付け工事			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				測量延長	m	450	450	100.0	200
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	やらなければならない事業であるが、その手法については、その都度、状況を考慮し再検討する必要がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	長期に亘るが事業は完了させなければならない。

### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	今後も、事業規模上、様々な調整事項が生じスムーズな事業進捗は困難であると思われるが、問題点を1つずつクリアして進めていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 様々な調整事項が生じ、スムーズには進捗しないが、与えられた予算内で少しずつでも事業を進めていきたい。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価		町長	評価

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線5号線(若林)改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	産業課、上下水道課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26.4 ~ R4.3
	事業内容	若林1自治会より要望 道路改良(拡幅、歩道設置)を行う。 通学路安全対策(社会資本整備総合交付金導入予定) L=450m W=12m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額		千円	42,912	32,708	31,263	27,816	31,816
			事業費等		千円	41,122	30,932	29,447	26,000	30,000
			国支出金	千円		13,200	10,505	7,964	16,500	
			県支出金	千円						
			地方債	千円	37,000	14,600	17,000	16,100	13,500	
			その他	千円						
			一般財源	千円	4,122	3,132	1,942	1,936		
			人件費		千円×人役	1,790	1,776	1,816	1,816	1,816
正規職員		千円×人役	5,968 × 0.30	5,920 × 0.30	6,053 × 0.30	6,053 × 0.30	6,053 × 0.30			
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×			
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度			
	用地買収、物件補償及び改良工事			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				用地買収	件					
				物件補償	件					
改良工事	m	396	396	100.0	199	199	100.0			
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度			
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	ある程度、計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	地権者の合意は得られているので、予算さえ確保できれば事業は完了できる。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	今後も、事業規模上、様々な調整事項が生じスムーズな事業進捗は困難であると思われるが、問題点を1つずつクリアして進めていきたい。特に令和2・3年度は第一松原踏切拡幅工事の進捗により工事内容の調整が必要となるため、手続き等に漏れないよう進めていく。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	事業規模は大きいですが、与えられた予算内で少しずつでも事業を進めていきたい。なお国庫補助事業対象であることから、補助事業費の付きによっては事業の前倒しが必要となり、予算措置について財政係との協議を進める。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			一級幹線かつ重要な通学路となっていることから、国庫補助事業により早期に整備完了させる必要がある。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	二級幹線4号線(第一松原踏切)改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	こども教育課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26. 4 ~ R3. 3
	事業内容	松原区より要望 踏切及び道路改良(拡幅、歩道設置)を行う。 通学路安全対策(社会資本整備総合交付金) L=130m W=8.5m~10.45m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額		千円	6,152	44,114	44,146	190,617	0
			事業費等		千円	4,958	42,930	42,330	188,801	0
			国支出金	千円	2,420	11,194	21,450	64,350		
			県支出金	千円						
			地方債	千円		11,900	16,600	111,900		
			その他	千円				9,332		
			一般財源	千円	2,538	19,836	4,280	3,219		
			人件費		千円×人役	1,194	1,184	1,816	1,816	0
正規職員			千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.30	6,053 × 0.30	6,053 ×		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	用地買収、物件補償道路詳細設計を実施 JR東日本との協定締結			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				用地買収、物件補償契約	件	3	3	100.0	1	1	100.0
				工事延長	m	80	80	100.0			
	協定締結	件				1	1	100.0			
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	地権者の合意は得られているので、予算さえ確保できれば事業は完了できる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主 担 当 者	協定に基づき、工事執行をJRが実施することとなるが、協定額は最大の費用を設定しているため減額が見込まれる。国庫補助事業であるため、不用となった金額を別工事にて執行する必要があることから、慎重かつ正確な調整が必要となる。		
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	トータル事業費が大きく、地元の期待も大きいため着実に進めていきたい。また工事に伴う交通規制により、町民への負担が大きいため丁寧な執行を心掛けたい。
	2 次 評 価	所 属 長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			新橋小学校の通学路となっていることなど安全性の向上が求められていることから、国庫補助導入により早期に完成させる必要がある。	
3 次 評 価	町 長	評価	今後の方向性	

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	潤島63号線新設事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当区分	係長	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	産業課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H24. 4 ~
	事業内容	小山野木間道路整備に関する事業 JR側道として道路を新設する。 L=730m W=6.5m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	0	0	0	0	0
		財源内訳	事業費等	千円	0	0	0	0	0
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円						
	人件費	千円×人役	0	0	0	0	0		
正規職員	千円×人役	5,968 ×	5,920 ×	6,053 ×	6,053 ×	6,053 ×			
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	地権者との面会を重ね、事業への理解を深める。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				面会	回	1	1	100.0	1
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	反対地権者が1名存在するため、このままでは、事業完了はできない。対策を練り直さないと現状打破は望めない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	反対地権者の動向次第であるため。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	困難を極めている反対地権者への対応について、手法を変更することも考慮すべきか。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地権者交渉を粘り強く継続すると共に、他の対応策も研究模索していく。相談先として司法書士への相談を促す。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	未相続の土地が存在していることから全線開通となっておらず、事業中断となっているが、相続が完了できしだい進める必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	野木54号線路線改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民、野木工業団地関連利用者	実施期間	H27. 4 ~
	事業内容	野木工業団地内道路の側溝蓋未設置箇所について、年次計画をたてて、すこしずつ改善していく。 L=1, 720m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	8,986	0	0	11,211	6,211
		財源内訳	事業費等	千円	8,986	0	0	10,000	5,000
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円	8,000			9,000	4,500
			その他	千円					
		一般財源	千円	986			1,000	500	
	人件費	千円×人役	0	0	0	1,211	1,211		
正規職員	千円×人役	5,968 ×	5,920 ×	6,053 ×	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20			
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	蓋版据付工事を実施する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	蓋版据付により、利用者の安全性が向上した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	やらなければならない事業であるため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算措置上、長期に亘るが事業は完了させなければならない。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	今後の課題として、コンサルに設計を委託したほうが、トータルとして安価に事業が進められることもある。事業実施箇所状況を見極める必要がある。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	年次計画をたてて、少しずつでも蓋版据付を実施していく。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	昭和38年の野木工業団地土地区画整理事業完成時から側溝蓋が未設置の状態である町道である。令和元年に完成した野木第二工業団地への連絡道路でもあるため、早期に側溝蓋を設置し安全性を向上させる必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性



4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	一部反対地権者の動向次第、国庫補助金の付き具合に左右され、長期に及ぶ事業になる。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	地域住民は懇願しているが、思うように事業が進まない。 改善点としては、長期事業になってしまうことの住民説明(いかに理解を求めるか)の仕方である。 事業計画では令和2年度が最終年度であるが、用地交渉や国庫補助金の付き具合により、完成は見込めないため事業計画の延長について古河市との協議を行っていく。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 止められない事業として、古河市も野木町も認識しているため、少しずつでも進めていきたい。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価		町長	評価

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	佐川野31号線他1路線改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H28. 4 ~
	事業内容	佐川野墓地関連整備事業 側溝を整備し、地域の要望である排水対策を行いたい。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	5,792	0	0	0	11,605
		財源内訳	事業費等	千円	5,195	0	0	0	11,000
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	5,195					11,000
	人件費	千円×人役	597	0	0	0	0	605	
正規職員	千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 ×	6,053 ×	6,053 ×	6,053 ×	6,053 × 0.10		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×	470 ×		
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	排水測量、詳細設計			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				測量延長					
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	工事延長が長いので、分割して設計 → 工事と調整しながら進めていきたい。 数年にわたり事業が停滞しているため、地元の理解を得るためにも少しずつでも事業を進めたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地域の期待は大きいので、予算を確保し、順次進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	予算の確保ができ次第進める必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	市民農園内道路新設事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	産業課、未来開発課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H28.4 ~ R2.3
	事業内容	野木第二工業団地造成事業と関連がある。 市民農園内に道路を新設する。 L=80m W=8m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額		千円	792	1,544	3,597	0	0
			事業費等		千円	195	952	2,992	0	0
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円	195	952	2,992			
			人件費		千円×人役	597	592	605	0	0
正規職員			千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 × 0.10	6,053 × 0.10	6,053 ×	6,053 ×		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	用地取得・道路新設			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				用地取得	件	1	1	100.0			
				工事延長	m				56	56	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 B. 一部結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業としているが、整備方針が定まっていないため、不透明な部分もある。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 C. ニーズが減少している事業である	理由	一部の自治会住民から、道路整備の必要性は低いとの訴えがあり、ニーズは減少している事業であるといえる。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	事業完了

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	無事に事業完了となった		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	事業完了
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	事業完了
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線5号線他(川西地区)改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	都市整備課
	分野別目標	生命・財産を守るまちづくり		係	建設係
	施策分野	防災対策	(5) 主担当区分	主任	
	施策	防災活動の支援	(6) 関連する課	総務課、産業課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例、農地法、水防法、災害対策基本法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民及び川西地区住民	実施期間	H27. 4 ~
	事業内容	川西地区住民からの要望 3集落(本新田、下影、角新田)住民のために災害時の一時的な避難地や救援活動の支援拠点として、 一級幹線5号線の道路改良を含め防災広場(関連施設)を整備する。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	4 項	4 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	4,205	10,204	605	12,605	0
		事業費等	千円	3,608	9,612	0	12,000	0	
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	3,608	9,612	0	12,000		
	人件費	千円×人役	597	592	605	605	0		
正規職員	千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 × 0.10	6,053 × 0.10	6,053 × 0.10	6,053 ×			
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	用地測量業務 道路設計業務			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				用地測量	件	1	1	100.0	
道路設計業務	m								
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業としているが、整備方針が定まっていないため、不透明な部分もある。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	一般道路整備、水防拠点整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道及び災害避難地の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	国土交通省の協力により事業を進めているため、この手法で進めていきたい。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	地権者の合意は得られているので、予算さえ確保できれば事業は完了できる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業のスムーズな進捗の鍵を握るのは、様々な関係機関調整である。よって、頻繁に連絡調整を図っていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	事業費が大きく、なかなか一筋縄ではいかない事業であるが、引き続き事業年次計画に基づき進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	国土交通省に事業の早期完成を要望し、国の工事の予算化に合わせて、町工事を進めていく必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	潤島12号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	上下水道課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29. 4 ~
	事業内容	住民要望(H27) 側溝を整備し、排水対策をする。 L=650m W=6m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	4 項	4 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	3,794	0	0	0	5,605
		事業費等	千円	3,197	0	0	0	5,000	
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	3,197					5,000
	人件費	千円×人役	597	0	0	0	605		
正規職員	千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 ×	6,053 ×	6,053 ×	6,053 × 0.10			
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	路線測量・用地測量を実施する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業が一時休止になっているため、再開までの地元への対応等を考えていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地元の要望が非常に強く、町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。このようなことから、一年でも早く事業を再開させたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	流末となる都市下水路が完成できしだい、町有地の有効活用の観点からも進めていく必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	松原14・17号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29. 4 ~
	事業内容	住民要望(H27) 道路改良(拡幅し、側溝を整備する。) L=125m W=6m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	3,168	0	0	0	6,605
		事業費等		千円	2,571	0	0	0	6,000
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源		千円	2,571				6,000
	人件費		千円×人役	597	0	0	0	605	
正規職員		千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 ×	6,053 ×	6,053 ×	6,053 × 0.10		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	路線測量、用地測量 物件補償算定			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業が一時休止になっているため、再開までの地元への対応等を考えていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地元の要望が非常に強く、町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。このようなことから、一年でも早く事業を再開させたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	どんぐり公園の南北に位置する市街化区域内の住宅密集地区内にある道路であることから、早期に整備できるよう測量設計について事業費軽減方法を検討し進める必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線1号線(右折レーン整備)改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29. 4 ~
	事業内容	主要交差点(2ヶ所)に右折レーンを整備する。		
	前年度から改善した点	まるや酒店前交差点については、栃木土木事務所にて改良を実施していただけることとなった。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	5,565	0	0	0	12,905
		財源内訳	事業費等	千円	4,968	0	0	0	12,300
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	4,968					12,300
	人件費	千円×人役	597	0	0	0	0	605	
正規職員	千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 ×	6,053 ×	6,053 ×	6,053 ×	6,053 × 0.10		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×	470 ×		
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	縦横断測量 L=600m 交差点詳細設計 2ヶ所			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていく。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	現道内での改良について、県実施の方法を参考に実施していきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。このようなことから、一年でも早く事業を再開させたい。また実施方法についても、より費用対効果の高い方法を検討していきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	小山野木線と佐川野友沼線の交差点改良については、引き続き、県に事業化要望を行っていく必要がある。その他の町道の交差点については、小山野木線の全線開通時期に合わせ事業化していく必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	中谷南赤塚3号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	生活環境課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29. 4 ~
	事業内容	住民要望(南赤塚環境整備事業) 道路改良(拡幅し、側溝を整備する。) L=360m W=5m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	2,217	0	2,464	8,605	13,605
		事業費等		千円	1,620	0	1,859	8,000	13,000
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源		千円	1,620		1,859	8,000	13,000
		人件費		千円×人役	597	0	605	605	605
正規職員		千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 ×	6,053 × 0.10	6,053 × 0.10	6,053 × 0.10		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	路線測量の実施			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主 担 当 者	事業が一時休止になっていたが、令和元年度より再開。段階的ではあるが、計画的な実施に努めたい。大規模な事業であり、地元の注目度の大きいことから、着実な執行により地域の信頼を得ていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	地元の要望が非常に強く、町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。令和元年度より再開となったことから計画的な整備を行い、地元との関係構築に努めたい。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	狭小な道であり、沿道にすまれている方の車や農耕車の通行に支障があるため、早期に整備する必要がある。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	南赤塚81号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	生活環境課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H31.4 ~ R3.3
	事業内容	住民要望(南赤塚環境整備事業) 道路改良(砂利道から両側側溝、アスファルト舗装実施。) L=150m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額		千円	0	0	2,475	16,105	0
			事業費等		千円	0	0	1,870	15,500	0
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円				1,870	15,500	
			人件費		千円×人役	0	0	605	605	0
正規職員			千円×人役	5,968 ×	5,920 ×	6,053 × 0.10	6,053 × 0.10	6,053 ×		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	現地測量の実施			路線測量	m	目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	長期間、事業が停滞していたが、令和元年度より着手。職員による実施設計により令和2年度完成としたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地元の要望が非常に強く、時間はかかってしまったが現地測量から着手した。早急な整備により、地元との良好な関係構築に努めたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	南赤塚地区環境整備の一環の道路でもあり、道路用地の寄付も完了となっているため早期に整備する必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	二級幹線9号線他1路線道路改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	生活環境課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H31.4 ~
	事業内容	住民要望(南赤塚環境整備事業) 道路改良(片側側溝整備実施。) L=630m W=6m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
			コスト総額		千円	0	0	3,179	3,805	15,505
			事業費等		千円	0	0	2,574	3,200	14,900
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円				2,574	3,200	14,900
			人件費		千円×人役	0	0	605	605	605
正規職員			千円×人役	5,968 ×	5,920 ×	6,053 × 0.10	6,053 × 0.10	6,053 × 0.10		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	現地測量の実施			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				平面測量	m				630
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないとできないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	国庫補助対象とし、町負担の軽減を図りたい。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	長期間、事業が停滞していたが、令和元年度より着手。延長が長く事業費が大きい事業のため、国庫補助の利用を検討したい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地元の要望が非常に強く、時間はかかってしまったが現地測量から着手した。早急な整備により、地元との良好な関係構築に努めたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	南赤塚地区環境整備の一環の道路でもある側溝整備であるため早期に整備する必要がある。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性